

平成 29 年 7 月 2 日

南の風 239

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

まず一つは、諸先輩との出会いです。当時、高校の全国大会は年3回だったのですが（年3回は現在も変わりません）、そのうちの1つである全国高等学校選抜優勝大会（1988年より現在のウインターカップとなり開催時期が年末となる）は、3月下旬の春休みに開催されていました。全国の女子強豪校が、選抜大会前に日立戸塚に集結するのです。主だったチームと指導者を紹介します。

1 樟蔭東	原田先生	6 昭和学院	西塚先生
2 東京成徳短大附	武井先生	7 甲子園学院	霜村先生
3 明星学園	椎名先生	8 夙川学院	松本先生
4 東亜学園	御子柴先生	9 中村学園女子	吉村先生
5 大妻女子	張替先生	10 薫英女学院	長渡先生

毎年来浜されていたわけではありませんが、選抜優勝大会に出場を決めたチームは、最後の仕上げをするために日立戸塚に集結して調整をするのです。錚々たるチーム、全国のトップレベルの指導者が集まるのですから、強化試合を観て勉強にならないはずがありません。お互いベスト8やベスト4で当たる可能性のある場合は当然、強化試合は行わず日立戸塚チームと強化試合を行ったり、お互いにメンバーを替えたりして腹の探り合いをしていました。富岡高校の星澤先生も赴任して間もない頃でしたが、時々見えていました。また名古屋短期大学附属高校（通称：名短のちの桜花学園）で何度も全国制覇することになる井上眞一先生も、まだ守山中で全中連覇（通算8連覇、井上先生は6連覇）の最中でしたが、ご自身はお見えになった年もありました。

強化ゲームを観るだけでも学びの場が満載でした。しかしそれに加えて、強豪チームのコーチの話を直接聞いたことが何よりの収穫でした。中でも樟蔭東の原田先生の話は、理論立てがすばらしく私自身ミニバスを指導していく上で、大変参考になったのを今でもはっきり覚えています。当時、樟蔭東はチームの人数が少なく、ベンチ入りが10人弱の時もありました。「よくあの人数で戦えるな」と思いました。原田先生は「**理に適った戦略・戦術が大切です。**」とよく言われます。有名な『フィギアエイト』の運びはその根幹となるものです。未熟な私は、最初はフィギアエイトを中々理解することができませんでした。後に原田先生にご指導いただき、なんとか理解ができ、ミニバスにも若干取り入れることができるようになりました。

樟蔭東は通算、選抜優勝大会（現在のウインターカップ）において、優勝3回、優勝2回、3位3回という素晴らしい成績を収めています。

こうして日立戸塚の榎本ヘッドの計らいで、貴重な研鑽の場を提供していただくことができました。

最後に、もう一つ忘れることができない思い出があります。

常盤台時代、昭和55、57、59年と神奈川県を制して全国大会に出させていただいたのですが、私が榎本コーチに「中々連覇ができません。」と言った時に、「藤原先生、『**精進は不精に通ず**』です。」と色紙に書いてくださいました。私の座右の銘となりました。